

DRAFT

知働化研究会誌 *Volume 3*

Proceedings of Symposium 2023



知働化研究会
Essential Knowledge and Testers Laboratory

Symposium 2023

AI とシステムの社会的意義

本誌掲載の作品は、アジャイルプロセス協議会/知働化研究会主催の Symposium2023（2023.12.2 開催）で発表された成果を中心にまとめたものです。著作権は、各記事の著者に属します。お問い合わせ、ご質問などは、個別にお願いいたします。また、本誌全体に関するお問い合わせは、otsuki.s@lcorp.co.jp（大槻）までお願いいたします。

序 5

[01] Symposium2023 のコンセプト 大槻繁 7

シンポジウム諸元、知働化研究会のあゆみ、プログラム概要

基調講演 15

[02] 今、破壊的 AI について考えるべきこと 萩原正義 17

AI の進化、脅威への対応

A トラック：理論と技法 31

[A1] セル組織：超・個の時代の組織 濱勝巳 33

個の能力を最大限に活用し、高い生産性を生み出すことができる組織

[A2] 知識と LLM 松田裕幸 45

LLM 衝撃の内訳と、それでも残る課題

[A3] 思考の技法のあゆみとゆくえ 大槻繁 55

純粹でシンプルな組織経営法の取り組み

B トラック：経営と実践 77

[B1] 企業診断から見えてくること 飯泉紀子 79

小規模企業で経営・組織論はどこまで有用なのかを考察

[B2] アガサ社での思考の技法の実践

取り組みを、思考の技法の理論に沿って考察

鎌倉千恵美 85

[B3] 障がい者に自立の道を促す、 セル組織の取り組み

セル組織とスクラムを活用した IT エンジニアの育成

北野弘治 91

C トラック：個と社会との成長 109

[C0] C トラックの楽しみ方 野口隆史 111

人とは何か、社会とは何かを問う

[C1A1] 知働化とは何か？ 本橋正成 113

YURUism (ゆるイズム) による再定義

[C1A2] 知働化の実現 本橋正成, 羽生田栄一, 野口隆史 133

対話と弁証法 これからの哲学

[C2A] 次世代出版システム 野口隆史 **141**

出版システムの課題と新たな時代の価値

[C2C] AI 時代を迎えてのセキュリティの在り方とは

AI 社会をセキュリティはどう支える

米澤一樹 **147**

D トラック：人財と組織知能 157

[D1] 問題発見力とモデリング力を涵養する

要求獲得実践手法と教育事例 位野木万里 **159**

人と AI が共存する時代の人財育成

[D2] 成熟・発達を意識して自分自身の多様性を認

め許し、それを他者に活かす 塩田英二 **175**

多様な個別の価値観への対応の可能性

[D3B] iCD から見る主体性育成の可能性 上原誠 **185**

自己成長と創造性を引き出すための仕組みづくり

[D4] 拡張ディスカッション 位野木万里 **201**

フリートラック 205

[F1] ポスターセッション

位野木万里 **207**

位野木研究室学生の研究状況

[F2] 知のフリマ セッション

高柳譲, 野口隆史 **219**

新たなコミュニケーションのカタチ

寄稿 221

交通事故統計の再集計と社会貢献

水越明哉 **223**

コラム：ツールとしての AI

高橋雅宏 **227**

結 231

超・個の時代へのメッセージ, 謝辞

大槻繁 **233**

著者紹介

237